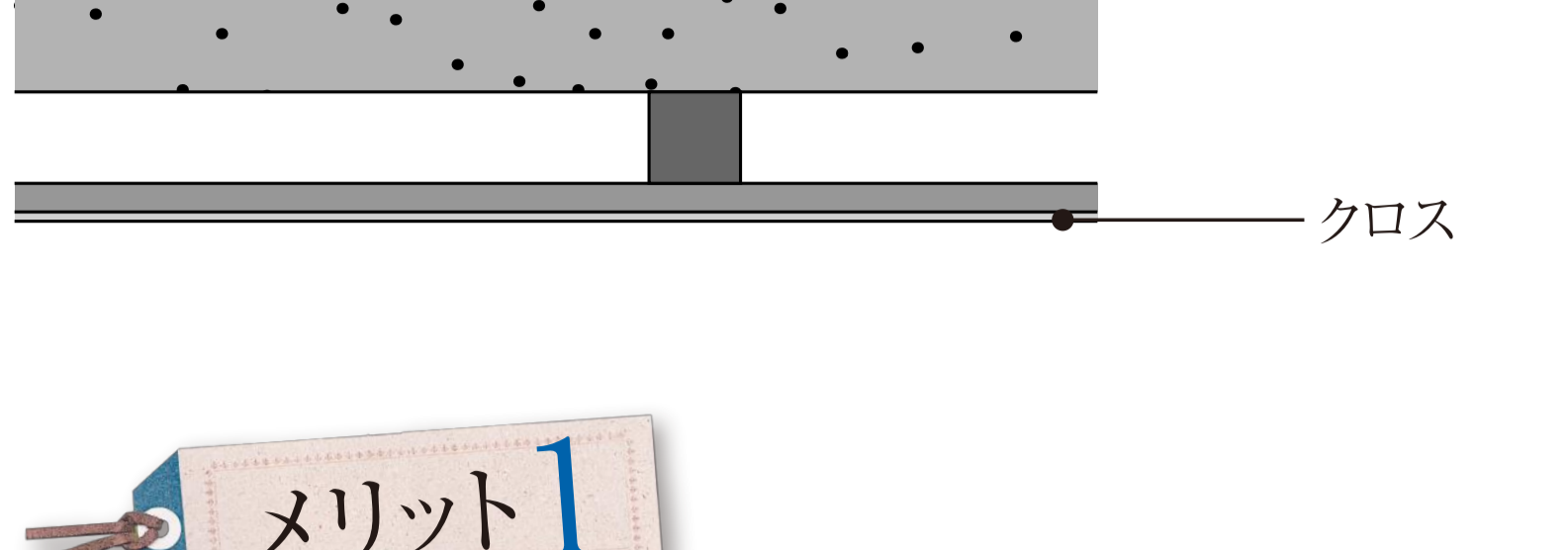
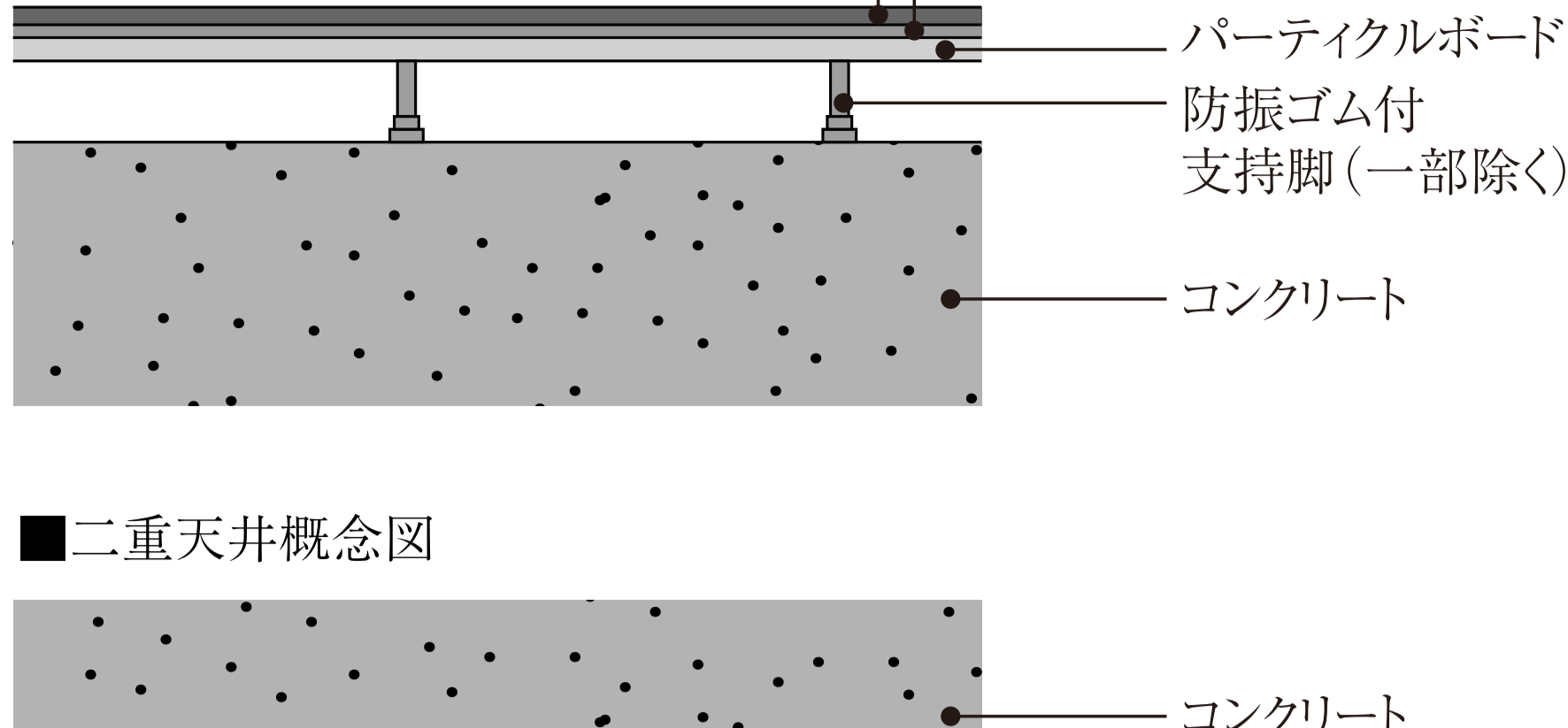


毎日の暮らし心地に差が出る快適設計

二重床・二重天井

住戸の構造においてはコンクリートスラブにフローリングや天井クロスを直張りではなく空間を設けた「二重床・二重天井」を採用。居住空間の遮音性・安全性、さらにメンテナンス性の向上を図り、『暮らしやすさ』を追及しています。



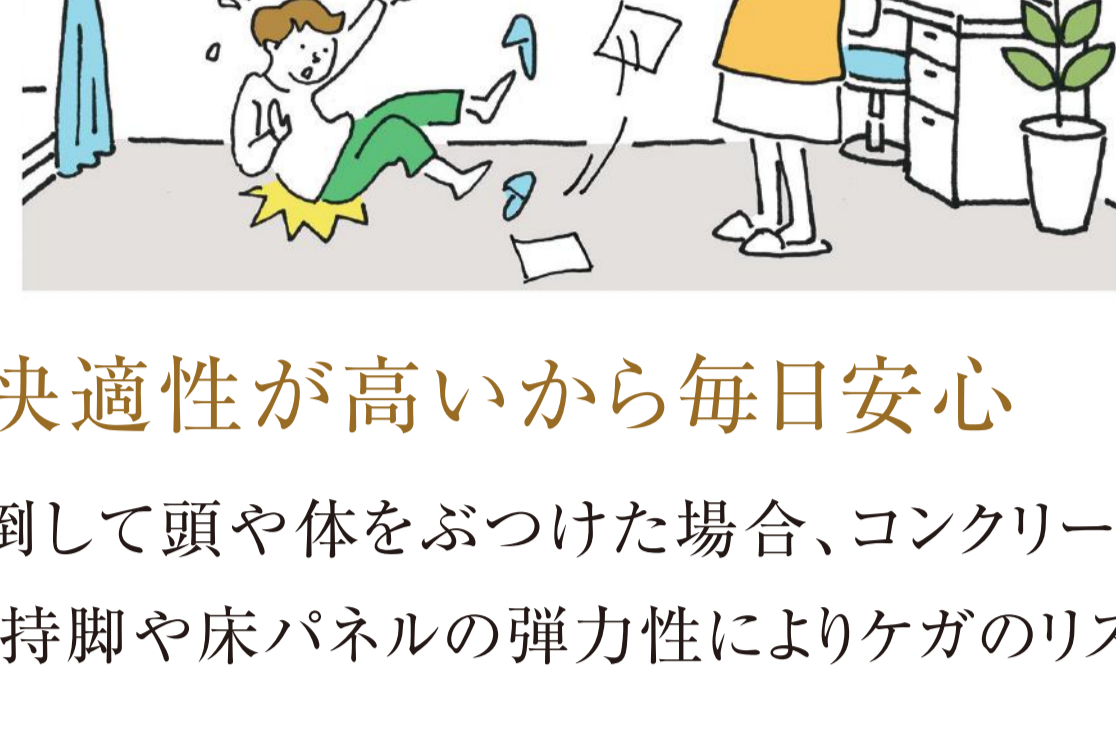
メリット1



遮音性が高く快適に暮らせる

床や天井の間に空間を設けているため、遮音性が向上。階上の生活音や衝撃音も届きにくく、快適に暮らせます。

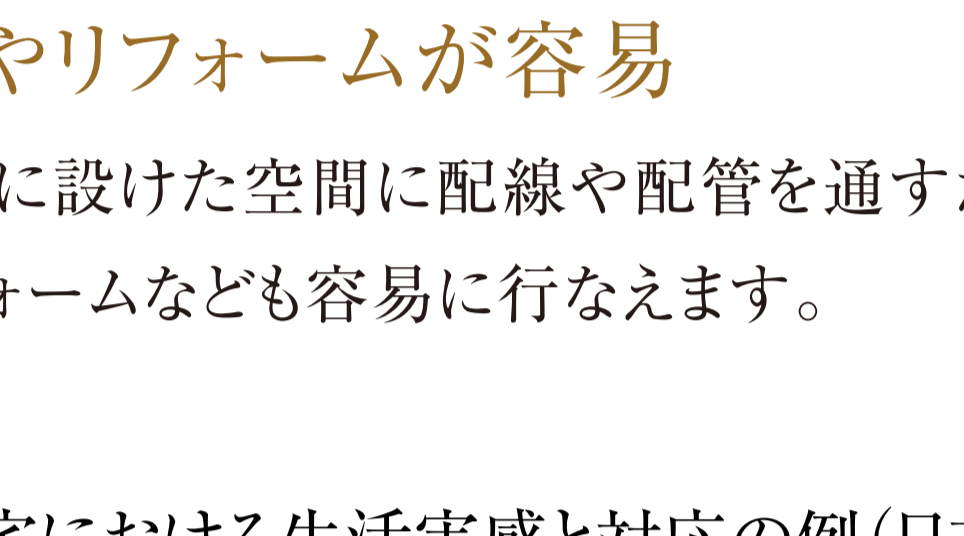
メリット2



安全性・快適性が高いから毎日安心

万が一、転倒して頭や体をぶつけた場合、コンクリート直張りよりも二重床は支持脚や床パネルの弾力性によりケガのリスクを低減します。

メリット3



メンテナンスやリフォームが容易

スラブと天井の間に設けた空間に配線や配管を通すため、メンテナンスや将来のリフォームなども容易に行なえます。

■表示尺度と住宅における生活実感と対応の例(日本建築学会)

		床衝撃音		
		人の走り回り 飛び跳ねなど	椅子の移動音、 物の落下音など	生活実感、プライバシーの確保
	L-40	かすかに聞こえるが、 速くから聞こえる感じ	ほとんど聞こえない	・上階で物音がかすかにする程度 ・気配は感じるが気にはならない
遮音等級	L-45	聞こえるが、意識する ことはあまりない	小さく聞こえる	・上階の生活が多少意識される状態 ・スプーンを落とすとかすかに聞こえる ・大きな動きはわかる
	L-50	小さく聞こえる	聞こえる	・上階の生活状況が意識される ・椅子を引きずる音は聞こえる ・歩行などがわかる
	L-55	聞こえる	発生音が気になる	・上階の生活行為がある程度わかる ・椅子を引きずる音はうるさく感じる ・スリッパ歩行音が聞こえる
	L-60	よく聞こえる	発生音がかなり気になる	・上階住戸の生活行為がわかる ・スリッパ歩行音がよく聞こえる

※推定L等級の床衝撃音レベル低減量は、公的試験機関及び社内試験室にて、際根太・巾木を用いず、また、フローリングと壁際は隙間を設けて試験を行った結果です。RC厚さ150mmのコンクリート床板での試験結果であり、実建物における性能とは異なります。

■転倒時の硬さ試験結果 ※1

※1: 泰成株式会社の自社試験結果を引用しています。試験方法は、『JIS A 6519 体育館用鋼製床下地構成材』の試験です。

		やわらかい ←	100	→ かい
二重床	YPE-TGタイプ +フローリング12mm	64Gs		
	YPE-Bタイプ +フローリング12mm	63Gs		
直床	コンクリート下地 +防音フローア※2		119Gs	
	コンクリートスラブ 素面			155Gs

※2: L L 45等級相当の防音フローアになります。

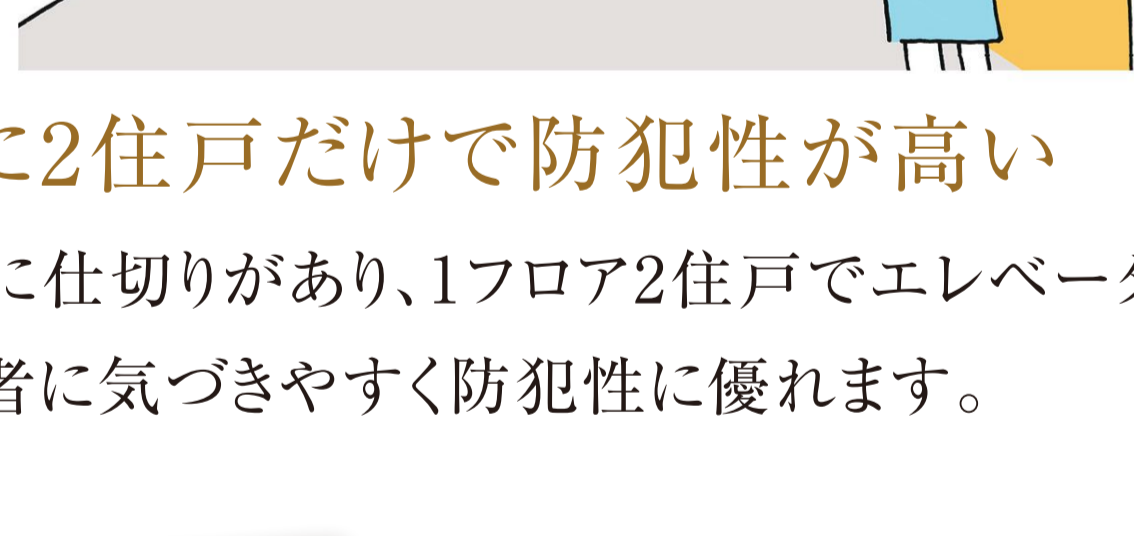
1フロア2住戸に1基のエレベーター

「バンパール宮レジデンス」では、1フロア4戸を中央で仕切ることにより、希少な2邸に1基のエレベーターの快適仕様を可能にしています。朝晩など、混み合う時間も待ち時間も少なく、また防犯性にも優れています。

プライバシー性とセキュリティ性を高めた安心仕様です。



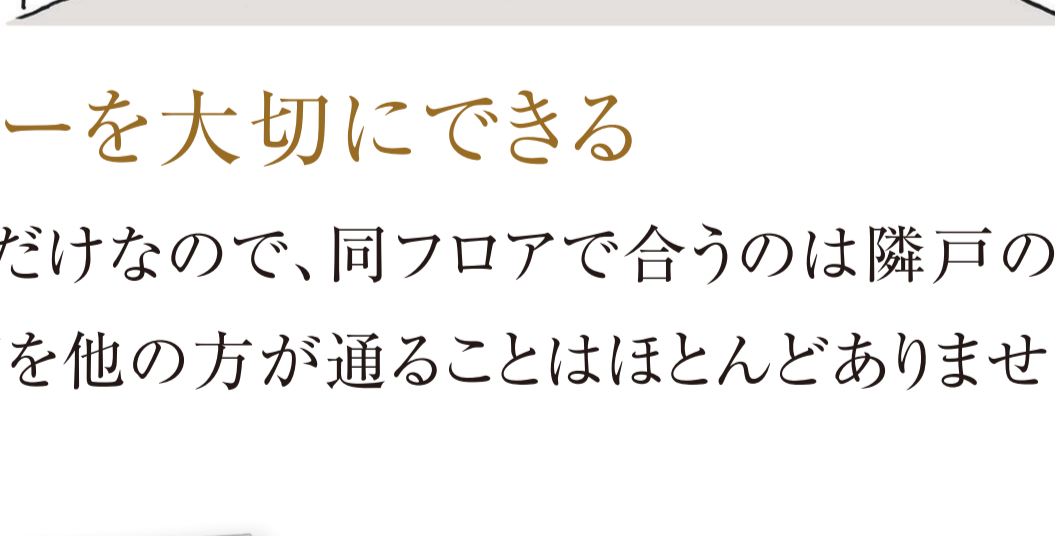
メリット1



1フロアに2住戸だけで防犯性が高い

フロア中央に仕切りがあり、1フロア2住戸でエレベーター1基を使うため、不審者に気づきやすく防犯性に優れます。

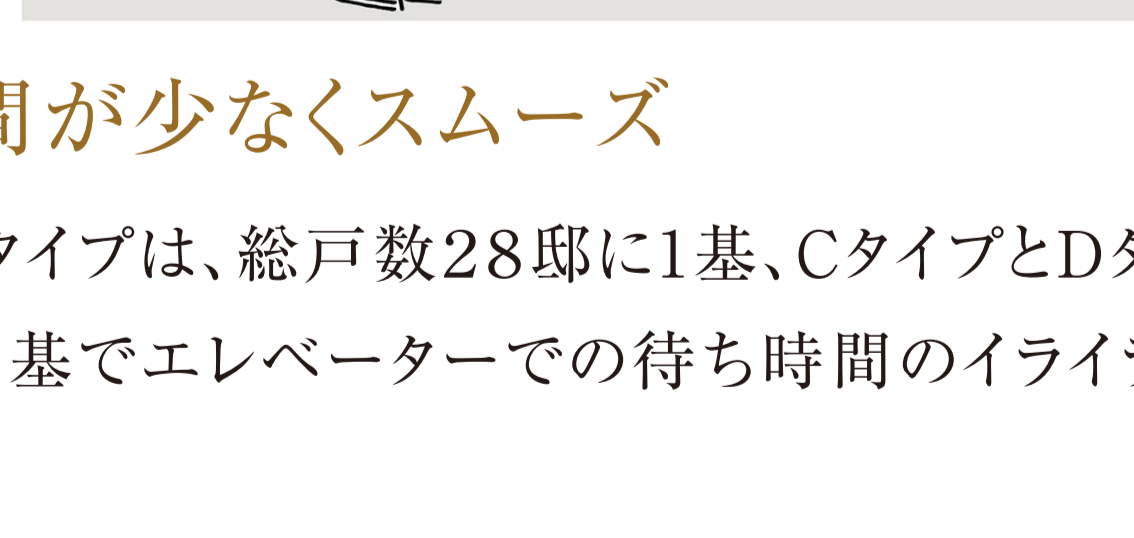
メリット2



プライバシーを大切にできる

1フロア2住戸だけなので、同フロアで合うのは隣戸の方だけ。玄関前の開放廊下を他の方が通ることはほとんどありません。

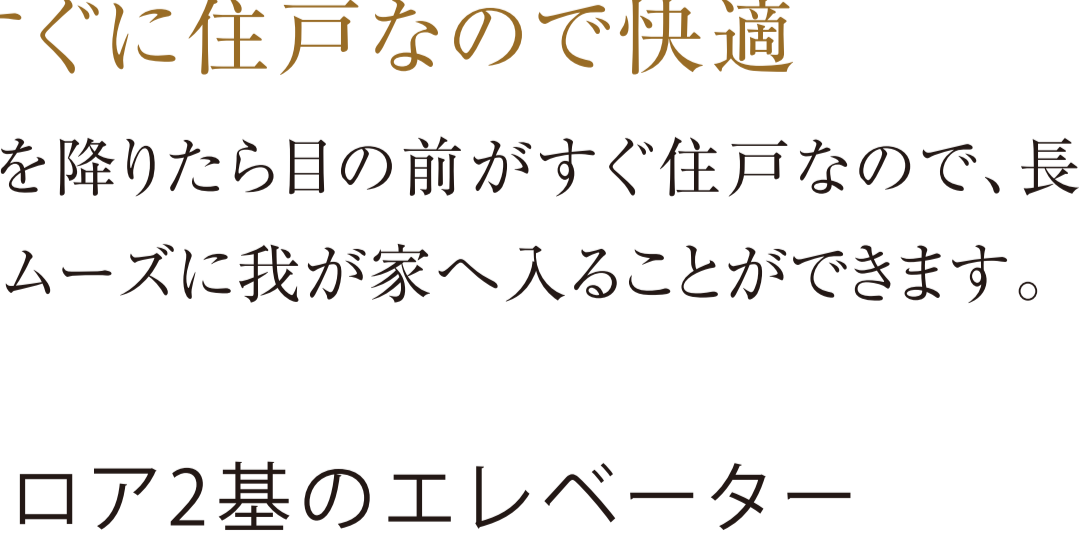
メリット3



待ち時間が少なくスムーズ

Aタイプ・Bタイプは、総戸数28邸に1基、CタイプとDタイプは、総戸数28邸に1基でエレベーターでの待ち時間のイライラ解消に努めています。

メリット4



降りたらすぐに住戸なので快適

エレベーターを降りたら目の前がすぐ住戸なので、長い廊下を歩く必要もなく、スムーズに我が家へ入ることができます。

1フロア2基のエレベーター
〈ゆりのりの広さの13人乗り〉